

困難さの状況
(事例の抱える困難)

合理的配慮の実際
(観点と取組の内容)

学校における『合理的配慮』の観点【3観点11項目】

①教育内容・方法

- ①-1 教育内容
 - ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - ①-1-2 学習内容の変更・調整
- ①-2 教育方法
 - ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - ①-2-2 学習機会や体験の確保
 - ①-2-3 心理面・健康面の配慮

②支援体制

- ②-1 専門性のある指導体制の整備
- ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②-3 災害時等の支援体制の整備

③施設・設備

- ③-1 校内環境のバリアフリー化
- ③-2 発達・障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

まとめと感想

演習シート（記入例）

困難さの状況 （事例の抱える困難）

- 話を理解することが難しい。
- 算数が苦手。わからなくなると、机に伏せる。→泣く。
- 全体への指示を聞いて行動することが苦手。
- ・・・・・・・・。
- ・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・・・・・・・。

記入例

合理的配慮の実際 （観点と取組の内容）

- 【①-1-1】
 - 全体への指示を聞いて行動することが苦手なため、見通しをもちながら集団の中で活動できるように、全体に指示した後、個別に確認したり指示したりしやすいよう、担任の近くの席にする。
 - ペア学習をすることにより、児童同士で声を掛け合い自然と指示に従うことができるようにする。自分から声を掛けたり、友達に尋ねたりすることで周りと同じように活動ができる。
- 【①-2-3】
 - A児は、低学年の時から学習中の姿勢が崩れやすく、頭が下がり机に伏してしまうことが多かった。分からないことやできないことで落ち込んでいる時や、集中が途切れて課題に取り組む意欲を無くしている時に姿勢が崩れやすいことから、挙手をして発表したときは、認めたりほめたりして自信をもたせたり、意欲が続くようにする。また、正しい姿勢を意識できるように、日常的に声掛けをする。
- 【②-1】
 - ・・・・・・・・

学校における『合理的配慮』の観点【3観点11項目】

①教育内容・方法

- ①-1 教育内容
 - ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - ①-1-2 学習内容の変更・調整
- ①-2 教育方法
 - ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - ①-2-2 学習機会や体験の確保
 - ①-2-3 心理面・健康面の配慮

②支援体制

- ②-1 専門性のある指導体制の整備
- ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②-3 災害時等の支援体制の整備

③施設・設備

- ③-1 校内環境のバリアフリー化
- ③-2 発達・障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

まとめと感想